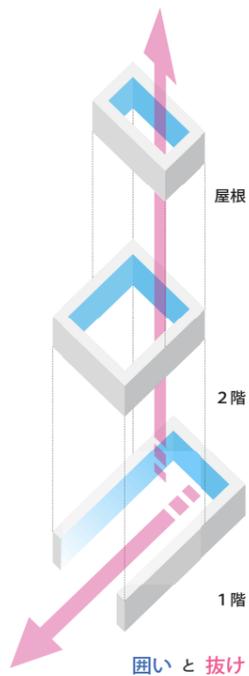


庭中の在処

■ 設計コンセプト

本計画は、静岡県浜松市郊外の住宅地に建築した夫婦と子ども2人の住まいである。敷地は昭和時代に宅地造成された住宅団地の一角であり、地山の切り盛りを行って造られたことから周辺一帯は傾斜した道路と基壇形状の場所となっている。広さは凡そ15m×15mで面積にして約65坪程度であるが、既存の擁壁構造物を含んだものであること、傾斜した道路からアプローチ可能な位置の制約、駐車スペース(2台)や多数の必要諸室の確保など、物理的な諸条件を踏まえると決してゆとりのあるものではないと感じた。加えて建築主の希望は、密集した住宅団地においてプライバシーを確保しつつも開放的な暮らしを求めるものであった。初めに庭の取り方について思案した。オーソドックスに南側へ庭を確保した場合、僅かな広さで且つ隣家の密集した場所が果たして豊かなものになるか疑問が生じた。またプライバシーを踏まえると中庭形式が望ましいと考えられたが、切り取られた坪庭の様な外部空間では開放的とは言えないと感じた。そこで単に庭のスペースを確保するというのではなく、『庭の中に居場所がある』という発想ができないかと考えた。次に敷地を南北に3分割するようなゾーニングを行った。エントランス廻りの『北ゾーン』、水廻りの『南ゾーン』、生活の中心部となる『中央ゾーン』を配置した。北ゾーンは2層、南ゾーンは屋根勾配なりの1層で、共に機能や個の用途で閉じたものとし、その間に挟まれた中央ゾーンは『囲い』と『抜け』によるプライバシーと開放性のある空間を目指した。囲いと抜けは、平面と断面を組み合わせた構成としている。平面的には、寝室・中庭・リビング・外庭さらにその先へと続くヨコに抜けるようなコ型の囲いをつくり、断面的にはリビング・中庭、寝室が2層の吹抜けとなり更に中庭部分は空へと続くタテに抜けるロ型の囲いをつくらせている。ヨコとタテに抜ける開放感とコ型とロ型の囲われたプライバシーによって内部と外部が一括りの空間となり、これが庭の中に居場所を存在させるものになると考えた。

■ ダイアグラム



■ 主な外部仕上げ

屋根 : 厚 0.35 ニスクカラー艶消し
外壁 : GL 鋼板 縦平葺き
 : 厚 5.2 平形スレート下見板張り
 : 厚 14 サイディング張り
 ジョリパッド
 : 厚 15 スギ板本実目透し張り

■ 主な内部仕上げ

[リビング・ダイニング]
床 : 厚 12 天然木複合フローリング
壁 : 厚 12 スギ板張り 自然着色塗装
天井 : 厚 5.5 ラワン合板 自然着色塗装

■ 建築概要

所在地 : 静岡県浜松市中区
計画区域 : 都市計画区域
用途地域 : 第一種低層住居専用地域
主要用途 : 一戸建て住宅
構造 : 木造在来軸組工法
階数 : 地上2階
最高高さ : 6.06 m
敷地面積 : 212.83 m²
建築面積 : 109.80 m²
延床面積 : 132.49 m²

権現谷の家



リビング・ダイニングを見る。「囲い」と「抜け」により閉じつつも開放的で豊かな居場所をつくる。

